

第35回

都島メディカル ・カンファレンス

参加費
無料
申込要

本会は、医師会と大阪市立総合医療センター、近隣の診療所・病院勤務医師の先生方や多職種の方々と、症例検討を中心としたカンファレンスです。このカンファレンスを通して診療レベルが向上し、相互の親睦が深まり、医療連携が促進されることで患者さんへより良質の医療を提供する一助となる事を目的としています。

今回は“血液疾患”をテーマに専門家でなくてもきちんと理解できるプログラムを企画いたしました。皆様と一緒に勉強したいと思っておりますので、ぜひ、ご参加ください。

2024年

3月2日 (土)

午後3時～5時 (14時30分受付開始)

会場：大阪市立総合医療センター 3階さくらホール

対象：医療従事者

◆プログラム



【症例①】 身体所見が診断に有用であった貧血の紹介患者

初期急病診療部長 山口 利昌

「貧血がある」と訴える患者が本当に“貧血”であるとは限りません。また、貧血の患者の症状や訴えは多彩かつ非特異的でもあり、血液検査を行って初めて貧血に気づくこともあります。しかし、貧血に特徴的な病歴や身体所見もあり、特に外観上の特徴的な身体所見が診断のための重要な手がかりになることがあります。



【症例②】 総合診療科の視点から血球異常を伴う症例の診断アプローチを考える

総合診療科医長 中村 友之

総合診療科は、様々な症状や検査異常などの原因精査のため多くの紹介を頂いております。血球異常については、血液疾患以外に感染症、免疫疾患などの多彩な鑑別疾患が挙げられ、診断難渋例や迅速な対応が必要な例もあります。今回、血球異常を軸に症例を通じて、問診、身体診察、検査を総合的に分析し、日常診療に役立つ診断アプローチについて検討します。



【特別講演】 血液疾患の日常診療

血液内科部長 中尾 隆文 (なかお たかふみ)

血液疾患は発症頻度も少なく、また急激な転帰を迎えるイメージもあり、苦手意識を持たれている一般医家の方は多いかも知れません。しかし実際には慢性に経過する疾患も多く、要点さえ押さえれば他の疾患の診療とそれほど変わるものではありません。また治療法の進歩により、従来は予後不良とされていた血液悪性疾患でも長期の予後が期待できるようになりました。それと共に抗癌剤治療に伴う心血管系の副作用や二次がんなど、長期を見据えた診療が必要な時代となっています。この会が、血液疾患の日常診療や病診連携について皆様方と一緒に考える場になれば幸いです。



【閉会あいさつ】

総合診療科部長 後藤 仁志

主催：大阪市立総合医療センター

【事務局】 総合診療科 後藤 仁志

初期急病診療部 山口 利昌

お問合せ：地域医療連携センター 神谷 金山 ☎06-6929-3633 (直通)